



反抗期のとまどい

校長 福原輝幸

反抗期 時に殴りたくもなる その眼差し

子どもの反抗期は二度あります。

この句は、3才から4才の第一次反抗期の子どもではなく、第二次反抗期の子どものこと。小学校高学年から第二次反抗期に入ります。青年期、疾風怒涛（しっぷうどとう）の時期と呼ばれ第二次成長期とも言います。

背ばかり伸びて、そのくせ頼りなげな細い肩と腰。「やってられないよ」「しょーもな」といっぱしの口をきいても、まだ誰も一人前扱いはしてくれません。

こうしたアンバランスな中で、子どもは年上・先生さらには自分を取り巻いている大人に不信の目を向けていきます。

分ったようなことを言い、小憎たらしさと反抗期の眼差しに、思わず手をあげかけたものの、眼差しの奥の不安げさに胸を衝かれる時があります。そういえば、自分もこんな目で親を見ていたことがあったんだと。

子どもの反抗期に親は戸惑い、また反抗期がないからと言って親は気に病む。親孝行な子どもは、時には、反抗期のジェスチャーを試みなければなりません。

大きくなることは大変なことなのです。

そして子育ては大変なことなのです。

雨の日の花

雨がふっている
花が咲いている

花の上に落ちる雨

悲しんでいるのは
雨だった

花をよけて
雨はふることができない

花は咲いている

雨の心をいたわり うけとめて
花びらに 雨の心を光らせて
花は 咲いている

(高田 敏子)

第7回『私の青空』国際環境絵本

コンクールのお知らせ

学校締切 8月30日

個人応募締切 9月15日

(当日消印有効)

< 行事のお知らせ >

6月13日

個別面談(最終日)

6月13日

海外子女文芸作品コンクール

(作品提出締切日)

6月14日 ~ 7月17日

夏休み

6月20日 ~ 7月13日

事務所閉鎖

7月18日 前期後半の授業開始